真宗大谷派　長浜教区　　1月･2月号

第24組 広報

発行日
20年 1月1日
第193号
発行責任者
組長　美濃部俊裕

新年のご挨拶

組長　美濃部俊裕

皆さんあけましておめでとうございます。

24組では12月に「法話と仏教讃歌のつどい」を開催しました。2017（平成29）年に開催された「組同朋のつどい」を機に、合唱団「山河サンガ」が結成されました。この度の大会は、法話と共に結成3周年を迎えた山河サンガの合唱をお聴きいただくという内容でした。330の客席数に見合った来場者数になるのか心配しましたが、280人もの方が来て下さいました。秦信映師のご法話も合唱も熱心に聴いていただき、好評でした。隣人、知り合いの「おさそいがあって聞法の場に来ることができました」と会場でよくお聞きしました。ありがたいことです。ご協力いただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

さて、大谷派では時代の変化に対応するために様々な改革が進められていますが、そのひとつに教区ならびに組の改編があります。長浜教区と京都教区を一教区にする案で、改編に向けた合意案をまとめる作業が続いています。11月から12月にかけて各組を巡回し、現時点での案について教区からの説明会が行われました。

24組は、住職や門徒の方々46名が出席され11月14日に行われました。説明の後、参加者から活発に質問や意見が出されました。改編の必要があるのか、どんなメリットがあるのか。改編が実施された場合、教化事業や経費がどうなるのか。長浜教務所は支所になるというが事務所機能はどう変わるのかなどの質問が出ました。意見交換を通して現長浜教区や組の教化が後退することを懸念する声が大変強いことを感じました。今後、教区では説明会の声を取りまとめ検討を行い、京都教区との協議に臨むと共に、再度各組で説明会を行う意向が示されました。

組の皆さんが、長浜教区や組の活動、また長浜、五村両別院に対して誇りを持ち、これを大切にしたいという気持ちを強く持っておられることがわかり、教化事業に取り組んでいく意味の大きさを改めて感じました。

それぞれのお寺では、報恩講、永代経、同朋会、日曜学校など、みんなが仏法にふれ信心を確かめる機会を大切にしてこられました。それぞれに伝わる「土徳」に感謝しつつ、聞法のくらしを歩ませていただきましょう。今年も組の活動にご理解とご協力をお願いします。

プロジェクト24研修会Ⅱ

日時／2月15日（土）午後7時より　　会場／来入寺（木之本町千田）
講師／美濃部俊裕氏（組長）　　講題／　「正信偈に学ぶ」

24組門徒会研修会開催のご案内

本年度の24組独自の研修会を開催いたします。
今回のテーマは、「教区再編問題」と「教団問題」の学習を計画しております。

教区改編では、前回の教区説明会で内容を聞きましたが、本年3月には「同意書」の承諾に関し可否の判断をしなければなりません。重要な研修会でありますので、全員の方の出席をお願い致します。（詳細は別途ご案内）

日　程　2020年2月23日（日）午前10時～午後4時
場　所　充満寺（西野）
講　師　教区の再編問題　美濃部組長（教区改編地方協議会委員）
　　教団問題学習　秦　信映師（24組教導）
　　※昼食を準備致します。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

びっくり仰天講座のご案内

新しい講座「びっくり仰天講座」を「テーマ：なぜ葬式は必要なのか」で行います。

実行委員が何度も集まって、皆様から「一番必要とされていることは何か」を話し合ってきました。一番いろいろなご意見、疑問をお持ちなのは、葬式や法事ではないかと考え、今回のテーマとしました。ご参加いただく皆様のご意見でいかようにも変化していく講座です。多くの方のご参加をお待ちしております。

日　時　2020年2月29日（土）午後7時～
会　場　了覚寺（高月町熊野）　講　師　難波教行氏（教学研究所助手）

社会問題研修会報告

社会部会　村田利文

10月24日（木）19:30より樹徳寺様（田居）において研修会を開催しました。平日の夜、また雨天の中ながら、２０名を超える皆様に参加頂き部落差別問題について学びました。講師　雨森慶為氏（本山解放運動推進本部　本部委員、１９組頓證寺住職）に“東本願寺火災と部落のひとびとの消火活動”と題して、江戸時代から明治初期の東本願寺（本山）の火災と、その消火活動を担ってきた近隣の被差別部落の人々について、出典文書を元に丁寧に話して頂きました。西本願寺は一度もないが、東本願寺は４度の大火に会っていること。その消火には被差別部落の人々が、まさに命がけであたったことなど興味深いお話でした。

最後になりましたが、準備等ご協力頂きました樹徳寺様ならびにご門徒の皆様に御礼申しあげます。

ホームページアクセス用ＱＲコード

真宗大谷派　長浜教区　第２４組　ホームページ
http://nagahamakyouku24.main.jp

山河サンガ結成３周年記念
「法話と仏教讃歌のつどい」開催報告

去る12月8日(土)午後1時30分より、24組合唱団「山河サンガ」が結成3周年を記念した「法話と仏教讃歌のつどい」を開催しました。組内外より約300人が集まり仏教讃歌の魅力を満喫しました。

田川恵美教化委員の司会の下で、まず美濃部組長より挨拶があり、合唱団結成の由来や活動内容等を紹介されました。

【美濃部組長の挨拶】

久保治美団長からは、50名近い団員の練習状況や、結成3年で公演できたことを感謝していると話されました。

法話は、組教導の秦信映氏が担当し「つながりを生きる」をテーマに講演されました。

合唱団結成時に組ではホームページを立ち上げ、その中にミニ法話として掲載されたものをまとめて今回記念品として冊子にし、教化委員会で編集した「正信偈　意訳本」と合わせて参加者に配布されました。そのミニ法話集をもとにお話を進められました。

【久保団長の挨拶】

【秦講師の法話】

【記念品】

合唱は「回向」「念仏」「なんまんだぶつの子守歌」「ほほえみとともに」等10曲を谷寿子さん（誓海寺坊守）の指揮、前川侑香さん（樹徳寺門徒）と高橋八重さん（誓海寺門徒）のピアノ伴奏で披露されました。

休憩時間を利用して、手話を交えながら全員で「ふるさと」を歌ったり、参加者と一体になった楽しいつどいになりました。最後に安居門徒会長からみなさんの熱意で盛大に開催できたこと感謝の言葉が述べられ、恩徳讃斉唱後、散会しました。（取材：広報部）

【手話で〈ふるさと〉を歌う】

家族のつながりを大切に

第24組門徒会長　安居　重晴

明けましておめでとうございます。

毎年のように天候による災害が起きて、国内のみならず世界各地で甚大な災害が発生しています。一度ならず二度、連年大きな災害に合われた方も多くおられ本当に心が痛む気持ちで御座います。できるだけ早く元の生活に戻ることができますよう願ってやみません。

正月は、皆さんのご家庭も嫁がれた方やお孫さんともども揃ってお過ごしになられるところが多いと思います。情報社会と言われて久しい感じがしますが、近年は更にコンピュータを用いた「ＡＩ」なる人工知能技術が進み、智的な行動を人間に代り行わせる研究が進み、一般家庭でも実用段階にあります。しかし、昔から人間の持つ感情を通わせることはコンピューター技術がいくら進んでも不可能と言われています。

そのような現在、私たちの周りでは、「目の前にいる家族よりスマホでつながる仲間が大事」とする流れが出てきていると言われています。東本願寺出版部発行の「同朋」には　一般的な人間関係もネットの普及でつながりが希薄になって孤独になってしまい、家庭にあっては一家だんらんの中でも家族のつながりが遮断されてしまう。いわゆる人と人を結ぶ接着剤がブツブツに断ち切られてしまうという記事が対談で掲載されています。

霊長類の研究で世界的に権威のある京都大学の山脇総長は生態研究で、ゴリラの父親は家族を大切にする特徴があり、子供が危険な目に合うと母親よりも敏感になるそうです。年を取っても独りではなく必ずメスや子供たち、群れの仲間に見守られて、まるで「生・老・病・死」を悟っているかのように、静かに看取られて死ぬと言われています。家族は体のつながりを前提にしてまとまっていて、これが一番信頼できるつながりであるのです。

社会情勢が刻々と変貌する今日、宗教の衰退と家族の衰退が同時に進んでいるのではないかと思えることもあります。私たちの湖北では、座敷には故人の遺影が飾られ、ご先祖のお顔がいつでも見られる家庭が多くあります。家族のつながり、またお寺でも隣どうし、集落どうし、そして同朋仲間のつながりを大切にしてゆきたいと思います。本年も何卒よろしくお願いいたします。　合掌

“法話と仏教讃歌のつどい”写真